



木曽林務課だより

11月

秋も深まり、紅葉の鮮やかさがいっそう際立っています。10月の好天が続く中、各学校の森林整備体験等が行われましたので、その様子を紹介します。

大桑中学校、南木曽中学校、福島小学校、木曽町中学校の森林整備体験が行われました。

大桑中学校の活動（みどりの少年団活動）

大桑中学校では、10月14日に1年生が、同村野尻の村有林において、木曽森林管理署南木曽支署や森林組合、県・村職員の指導のもとヒノキの除伐体験を行い、伐採した様々な樹種を学校に持帰り、鉛筆づくりに取り組みました。

夢中で作業に取り組む姿と、出来上がった鉛筆のオリジナリティの豊かさに関心させられた一日でした。



南木曽中学校の活動

南木曽中学校では、10月21日に1年生が同町田立の学校分収林において、35年生ヒノキの間伐を、南木曽町林業研究クラブや同町山林委員、森林組合や県・町職員の指導のもと実施しました。

大きな木を、手鋸とロープを使って伐採する作業は大変でしたが、森林整備の体験とともに、仲間と協力する大切さを学ぶよい機会になったのではないのでしょうか。

福島小学校の活動（みどりの少年団活動）

福島小学校では、10月25日に5年生が、同町戸立町有林において、ヒノキの枝打ち・除伐を行いました。同町有林は、下流域との協力で植樹等を進めてきた森林でもあります。

慣れない手鋸の扱いに苦労しながらも、福島林業振興会の会員や同町の森林(もり)の里親企業である(株)木曽駒ミクコの社員の皆さん、森林組合や県・町職員の指導のもと一生懸命作業し、見違えるようになった森を見て、満足げに帰途につく姿が印象的でした。



木曽町中学校の活動

木曽町中学校では、10月28日に1年生が同町三岳の町有林においてヒノキの枝打ち・除伐を行いました。

三岳林業振興会の会員や町の職員から、学校の先輩たちが毎年この森林の整備を続けてきたことを聞き、木は植えるだけでなく、何年も地道な保育作業を続けていくことで、立派な森が育っていくことを、理解してもらえたのではないのでしょうか。